

2019年度

(2020年3月期)

中間決算報告

NSユナイテッド海運株式会社

2019年10月31日



目次

1. 2019年度業績予想ハイライト ····・・・p. 2

2. 中間決算の概要 ······p. 3, 4

3. 2019年度業績見通し ・・・・・・・・・p. 5

4. 活動状況 ······p. 6

(ご参考) 当社当期純利益と株価の推移 ・・・・・・・・p. 7



1.2019年度業績予想ハイライト

【単位:億円】 (連結)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	前回公表値比較
上期	719	29	19	37	増収増益
通期	1,510	81	64	78	前回据置

上期業績

- ・ 来年1月から実施される硫黄酸化物(SOx)排出規制強化に備え、大型船を中心とする当社 運航船に順次SOxスクラバー搭載工事を行ったため、稼働率が低下しました。
- ・ 予定されていた所有船1隻の売船は第2四半期中に完了、また、7隻の新造船が予定通り上 期に竣工しました。
- ・ このため前年同期比では減収減益となるも、前回予想比では増収増益となり、営業利益29億 円、経営利益19億円、当期純利益37億円となりました。

- 下期業績の見通し ・ 長期安定契約を伴う新造船を含めて9隻が順次竣工する予定です。また、一連のSOxスクラ バー搭載工事は概ね予定通り進み、今年度中に終了予定です。これにより、一時的に低下してい た運航船の稼働率が平常に復帰し、収益力がいっそう強化されます。
 - ・ このため下期業績の見通しは、営業利益52億円(前年同期42億円)、経営利益45億円 (同33億円)と前年同期比増収増益を見込んでおり、通期業績見通しは上記の通り前回見通 しを据え置いております。

配当予想

- ・ 中間配当:前回発表の通り、一株当たり45円配当とします。
- ・ 期末配当:未定ですが、配当性向を概ね30%とする当社方針に基づき配当する予定です。



2.中間決算の概要

中間期連結決算

【連結】	2018年度						2	2019年度		前年度	
(単位:億円)	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	同期比
売上高	375	386	761	397	352	750	1,511	362	357	719	▲ 41
営業利益	19	29	48	25	17	42	89	15	14	29	▲ 19
外航部門	14	24	39	18	12	30	69	14	12	25	▲ 13
内航部門	5	5	9	6	5	11	20	2	2	4	▲ 5
経常利益	18	26	45	19	14	33	78	10	9	19	▲ 26
親会社株主に帰属する 当期純利益	12	32	44	26	23	50	93	12	26	37	▲ 7

市況推移(ケープ型撒積船)





2.中間決算の概要

外航海運 期首に市況の大底から脱し、第2四半期には回復基調となりましたが、大型船を中心としたスクラバー搭載工事を進めたことにより当社運航船の稼働率が低下したため、市況回復時の収益改善を十分に享受するには至らず、営業損益は前年同期比で約13億円の減益となりました。

ドライバルク:大型船の平均用船料率は期首に大底をつけた後、堅調な輸送需要を元に回復基調が続き、9月初旬には一時日額3万8千ドルを突破する水準まで回復しました。

タンカー: 期首から概ね堅調だった大型LPGタンカー(VLGC)は、中東の地政学的リスクの高まりなどから市況が押し上げられ、夏場以降も高い市況水準を維持しました。

内航海運 総じて輸送量が伸び悩み、営業損益は前年度同期比で約5億円の減益となりました。

鉄鋼原料輸送:石灰石、及びその他の製鉄副原料や鋼材の輸送が低調に推移したほか、例年を上回る台風の影響 により船舶稼働率が低下しました。

タンカー: LNG輸送、LPG輸送共に底堅い輸送需要を受け、輸送量は増加しました。

その他 前年度上期は為替評価益を計上したのに対し、今年度は9月末が前期末に比べ円高となったため、経常利益は為替評価損による影響をうけました。

上記事業環境により、中間期の連結業績は前年同期比で減収減益となりました。

2019年10月31日:中間決算報告



3.2019年度業績見通し

前回予想比 增収減益

【連結】	2018年度	2019年度 (前回予想)			2019年度 (今回予想)		
(単位:億円)	通期 (実績)	上期	下期	通期 (予想)	上期 (決算)	下期 (予想)	通期 (予想)
売上高	1,511	700	810	1,510	719	791	1,510
営業利益	89	26	55	81	29	52	81
経常利益	78	17	47	64	19	45	64
親会社株主に帰属する 当期純利益	93	36	42	78	37	41	78

	2018年度	
	通期	
為替	¥110.67	
市況 ケープサイズ	\$15,025	
パナマックス	\$9,817	
ハンディマックス	\$9,942	
スモールハンディ	\$7,491	

2019年度						
上期前提	下期前提	通期				
¥109.67	¥108.00	¥108.84				
\$14,000	\$18,000	\$16,000				
\$9,500	\$11,000	\$10,250				
\$9,000	\$11,000	\$10,000				
\$7,500	\$9,500	\$8,500				

2019年度						
上期実績	下期前提	通期				
¥109.50	¥108.00	¥108.75				
\$19,473	\$19,000	\$19,237				
\$11,014	\$11,000	\$11,007				
\$9,056	\$11,000	\$10,028				
\$6,651	\$9,500	\$8,076				



4.活動状況

船隊整備推進状況など

・現在建造中の400,000 型鉱石専用船「Valemax」は本年9月に無事進水を終え、12月に竣工を迎える運びとなっております。その後は資源メジャーVale社との長期輸送契約のもと、ブラジル・中国間の鉄鉱石輸送に従事する予定です。今年度下期にはこのValemaxを含め9隻の新造船が順次竣工する予定で、当社の収益力はいっそう強化されます。



建造中の「Valemax」

・当社では来年1月から実施される硫黄酸化物(SOx)排出規制強化に備え、酸性雨などの原因となっている排ガス中のSOx濃度を抑制すべく本船上にSOxスクラバーの搭載を進めており、これまでに9隻の搭載工事が完了しました。今年度中には計画しております全20隻へのSOxスクラバー搭載を完了する予定となっております。SOxスクラバー搭載船は来年1月以降も従来のC重油を使用することができますので、今後、硫黄分の低い規制適合油とC重油の価格差が開いていくことが予想されるなか、SOxスクラバー搭載船の価格競争力が高まるものと期待されています。

	2019年3月末	2019年度		2020年3月末
船種	合計	2019年9月末	2020年3月末 (予定)	増減
鉄鋼原料船	42隻	42隻	47隻	+ 5隻
中小型バルカー	75隻	71隻	72隻	+ 1隻
LPG/原油タンカー	4隻	4隻	4隻	± 0隻
外航船 小計	121隻	117隻	123隻	+ 6隻
内航船	80隻	77隻	80隻	+ 3隻
合計	201隻	194隻	203隻	+ 9隻

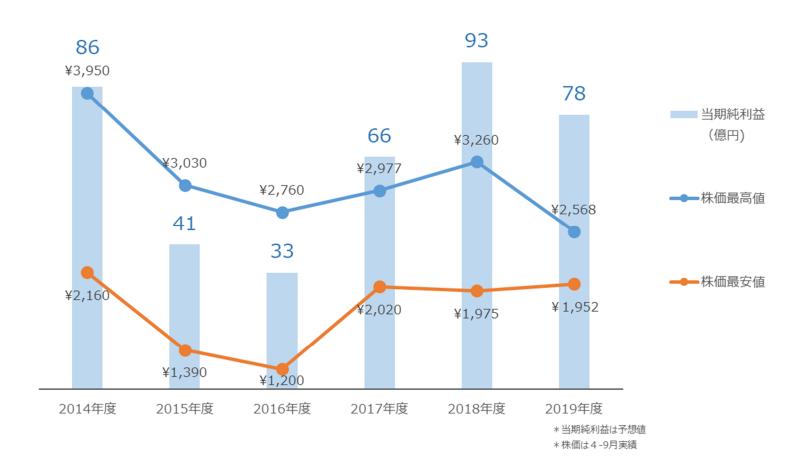
中期経営計画

・2019年度は現行中期経営計画『NSU 2021』の最終年度となりますが、新規輸送契約の締結や省エネ型新造船の竣工等を着実に進め、引き続き業績の向上に努めて参ります。また、2020年度を初年度とする次期中期経営計画の策定に向けて、グループ全体での検討を開始し、準備を進めています。

2019年10月31日:中間決算報告 6



(ご参考) 当社当期純利益と株価の推移



2019年10月31日:中間決算報告 7

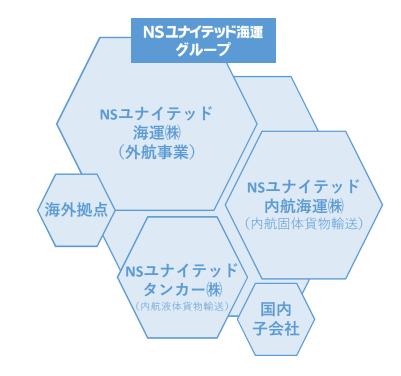
NSユナイテッド海運株式会社

NSユナイテッド海運グループは、 誠実で良質な海上輸送サービスの提供を通じて

(本資料に関する注意)

社会の発展に貢献します。

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が 本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したもので あり、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。



当社ウェブサイト: http://www.nsuship.co.jp

本資料についてのお問い合わせ先: 03-6895-6411